

変額年金（特別勘定）の現況

変額年金特別勘定の運用状況と組入れ投信の運用レポート

ワールド・ミックス60(成長指向)

2023年6月末



- 「組入れ投信の運用レポート」は、各特別勘定で組み入れる投資信託の運用レポートであり、参考情報として掲載しております。ご契約者が直接投資信託を保有しているわけではありません。
- 当資料記載の運用実績は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料は変額年金保険「最低年金原資保証タイプ」「特別勘定選択タイプ（最低年金原資保証不適用型）」の運用状況について、ご契約者の皆様への情報提供を目的として作成したものであり、生命保険契約の募集を目的とするものではありません。

変額年金（特別勘定）の現況をご覧になる方に、 特にご確認いただきたい事項

■ 投資リスクについて

- 変額年金保険の特別勘定の資産運用は、国内外の株式および公社債、国内外のその他の有価証券、貸付金、コールローンおよび預貯金等を主な運用対象としておりますので、株価の下落や金利の変動、為替の変動などにより年金額、積立金額、解約返戻金額等が一時払保険料を下回る場合があります、損失が生じるおそれがあります。

※死亡保険金額は一時払保険料の額を基本保険金額として最低保証いたします。

※最低年金原資保証不適用特約が付加されたご契約（特別勘定選択タイプ）については年金開始日の前日における積立金額（年金原資）について一時払保険料相当額の最低保証はございません。

■ 解約返戻金について

- 積立期間中（年金開始前）に限り、いつでも将来に向かって、保険契約を解約（減額）することができます。
- 契約日より10年以内にご契約を解約（減額）された場合にお支払する解約返戻金額は、解約（減額）日の積立金額に、経過年数に応じた下記の【解約控除率】の解約控除率を乗じた金額を、積立金から差し引いた金額となります。したがって、ご契約から短期間で解約された場合、運用実績がプラスの場合でもお払いいただいた一時払保険料より少ない金額となり、損失が生じるおそれがあります。
- 解約返戻金は、特別勘定の運用実績によって毎日変動します。また、最低保証はなく、株価の下落や金利の変動、為替の変動などにより一時払保険料を下回る場合があります、損失が生じるおそれがあります。
- 年金開始日以後の解約（減額）はできません。
- 減額後の基本保険金額は、会社所定の金額以上であることを要します。

【解約控除率】

経過年数	解約控除率
0年	7.0%
1年	6.3%
2年	5.6%
3年	4.9%
4年	4.2%
5年	3.5%
6年	2.8%
7年	2.1%
8年	1.4%
9年	0.7%
10年	0.0%

※経過年数は契約日から解約日までの年数とします。

※1年未満の月数が端数として生じたときは経過年数により期間按分して、解約控除率を計算します。（月未満の端数日数は切り捨てます。）

■ ご契約にかかる費用について

- 変額年金保険では、保険期間中つぎのような諸費用をお客様にご負担いただきます。諸費用は、積立金より控除いたします。以下の他、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、ユニットバリューに反映することとなります。したがって、お客様はこれらの費用を間接的に負担することとなります。

○積立期間中の費用

名称	ご負担いただく時期	概要
保険契約管理費 (※1)	毎日	特別勘定の資産額に対して年率1.12%(1日あたり1.12%/365)をユニットバリュー算出時に特別勘定資産より控除
最低年金原資保証コスト(最低年金原資保証タイプご加入の方のみ)(※2)	毎月月初	毎月月初その日の前日末の積立金額に対して下記【積立期間と最低年金原資保証コスト(年率)】の年率の12分の1を積立金額から控除(控除は保有口数の減少で行います)
積立金移転手数料(特別勘定選択タイプご加入の方のみ)(※3)	積立金移転時	同一保険年度内の積立金の移転回数 ^が 12回以内のとき無料 12回を超えると1回あたり1000円を積立金額から控除
解約控除	解約・減額時	上記【解約控除率】をご参照下さい。

※1 保険契約管理費とは以下の①～③の合計です。

- ①基本保険金額を死亡保険金額の最低保証とするための費用
- ②災害死亡保険金のための費用
- ③会社の経費に充てるための費用

※2 最低年金原資保証コストは最低年金原資保証タイプのみ、ご負担いただきます。

※3 積立金移転手数料は最低年金原資保証不適用特約が付加された特別勘定選択タイプ(最低年金原資保証不適用型)のみ、ご負担いただきます。

【積立期間と最低年金原資保証コスト(年率)】(最低年金原資保証タイプご加入の方のみ)

積立期間	年率	積立期間	年率	積立期間	年率
10年	0.98%	17年	0.35%	24年	0.20%
11年	0.87%	18年	0.31%	25年	0.19%
12年	0.76%	19年	0.28%	26年	0.18%
13年	0.64%	20年	0.24%	27年	0.17%
14年	0.53%	21年	0.23%	28年	0.16%
15年	0.42%	22年	0.22%	29年	0.15%
16年	0.38%	23年	0.21%	30年以上	0.14%

※積立期間は、契約日から年金開始日までの年数とします。

○年金支払期間中の費用

名称	ご負担いただく時期	概要
年金管理費	年金開始日以降の年金支払日	年金月額に対して1%

○信託報酬等(原則、特別勘定選択タイプご加入の方のみ)

投資信託を投資対象とするファンドには下記の信託報酬がかかります。(2019年10月1日より消費税率が8%から10%に変更されたことに伴い、信託報酬も新消費税率が適用されています。)また、下記以外に、組み入れている投資信託の監査費用がかかります。

2019年10月1日現在

利用するファンド	信託報酬
ワールド・ミックス40(バランス指向)	年0.56%(税込)
ワールド・ミックス60(成長指向)	年0.57%(税込)
ワールド・ミックス80(積極指向)	年0.69%(税込)

※上記の数値は、各特別勘定が保有する複数の投資信託の合計残高に対する平均的な割合です。ご契約者に公表する運用結果は、上記の費用を差し引いた後の金額となります。

※上記の数値は将来にわたって変更される場合があります。

※「マネープール」ファンドについては自社運用のため、信託報酬はかかりません。

＜ワールド・ミックス60(成長指向)の運用状況＞



[6月の運用環境]

＜国内市場＞

・株式市場

国内株式市場は、上昇しました。

前半は、米国の債務上限問題が解決したことや、米雇用統計での強弱入り交じる結果を受けてFRBが利上げを見送るといった観測から米国株式市場が上昇すると、国内株式市場にも波及し上昇しました。後半は、株価上昇による利益確定の動きなどから売りが先行したものの、円安米ドル高を好感した買いやインバウンド需要の回復が続く企業への業績期待を背景に、高値圏で推移しました。

月末の日経平均株価は33,189.04円で終了しました。

・債券市場

国内債券市場では、10年国債利回りが低下しました。

月央に日銀金融政策決定会合を控えて様子見気分が強まる中、月前半は利回りが横ばい圏で推移しました。月後半は利回りの低下が続き、一時4月初旬以来の低水準まで低下しました。日銀金融政策決定会合では、長短金利操作など現行政策の維持が決定されたことに加え、物価見通しに関する総裁発言などから当面は政策変更が無いとの見方が強まり、債券への買いが加速しました。また、内外株式の上昇を背景にリバランスを目的とした債券買いが強まるとの見方や国債大量償還に伴う再投資の買いが見込まれたことも、債券市場を支えました。

月末の10年国債利回りは0.395%で終了しました。

＜海外市場＞

・外株市場

米国株式市場は、上昇しました。

月前半は、債務上限停止法案が可決されたことや、消費者物価指数の伸びが鈍化したことでFOMCにおける利上げの休止が期待されたことなどから堅調に推移しました。月後半は、パウエルFRB議長が議会証言においてさらなる金利上昇が必要との考えを改めて示したことなどから上値の重い展開が続きましたが、月末にかけては市場予想を上回る経済指標が相次いだことを受けて景気の軟着陸期待が高まったことなどから上昇しました。

欧州株式市場は、上昇しました。

月前半は、中国による不動産市場支援などの景気刺激策への期待などから上昇しました。月後半は、中国の利下げが小幅にとどまったことや、BOE(英中央銀行)が市場予想を上回る利上げを行ったことなどから域内の景気減速懸念が高まり、下落しました。

月末のNYダウは34,407.60ドルで、ドイツDAX指数は16,147.90で終了しました。

・外債市場

米国10年国債利回りは、上昇しました。

FOMCで追加利上げが見送られた一方、参加者の政策金利見通しが引き上げられました。利上げ長期化観測が強まる中、金利の水準訂正を見込んだ売りと先行きの景気減速を意識した買いが交錯し、利回りが狭いレンジで推移する展開が続きました。月末にかけては経済指標の改善が続いたことで売りが優勢となりました。

ドイツ10年国債利回りは、上昇しました。

月央にECB理事会を控える中、利上げ継続を見込んだ売りが優勢となり、利回り上昇が続きました。15日の理事会では8会合連続の利上げが決定され、7月会合での利上げ継続も示唆されました。月末にかけて、ユーロ圏の購買担当者指数やドイツの企業景況感指標の悪化が続き、債券を買い戻す動きが活発化したことから、一時利回りが低下しました。

月末の米国10年国債利回りは3.840%で、ドイツ10年国債利回りは2.390%で終了しました。

・為替市場

米ドルは対円で上昇となりました。

月前半は、日銀金融政策決定会合を控えて方向感なく推移しました。その後、日銀金融政策決定会合において、現行の金融政策の維持が決定され日米の金融政策の方向性の違いが再確認されたことなどから、円売りドル買いの動きが強まりました。円安ドル高の動きは月末まで継続しました。

ユーロは対円で上昇となりました。

月前半は、月央に日銀金融政策決定会合とECB理事会を控え様子見姿勢となりました。しかし、ECBが利上げを決定し、一段の追加利上げに積極的な姿勢を示す一方、日銀は現行の金融緩和策を維持したことで、金融政策姿勢の違いが意識され、月後半は大幅に円売りユーロ買いが進展しました。

月末のドル円は144.99円で、ユーロ円相場は157.60円で終了しました。

2023年6月度

マンスリー レポート

<ワールド・ミックス60(成長指向)の運用状況>



[ユニットバリュー]

日付	当月末	前月末
ユニットバリュー	211.8835	200.0977

* ユニットバリューとは、各特別勘定の運用開始時を100として、「持ち分1口当たりの価値」を意味します。
特別勘定の運用実績により日々変動します。

日付	当月	直近3ヶ月	直近1年	設定来伸び率(%)
伸び率	5.89%	10.25%	14.95%	111.88%

[資産配分の推移(時価ベース)]

(単位:千円、%)

	2023年6月末	
	金額	構成比
短期資金等	287	2.7
その他有価証券(バランス50VA1等)	10,275	97.3
合計	10,562	100

*投資信託は会計上はその他の有価証券に区分されます。

[6月の運用経過]

<運用内容>

期を通して、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社の設定する投資信託<バランス50VA1(適格機関投資家専用)>と<日本株式インデックス・オープン VA1(適格機関投資家専用)>の組入れ比率を高水準に維持しました。

<運用結果>

6月度のユニットバリュー騰落率(=時間加重収益率)は前月比で5.89%の上昇となりました。
設定来のユニットバリュー騰落率は111.88%の上昇となりました。
また、6月末のユニットバリューは211.8835となっております。

<ワールド・ミックス60(成長指向)の運用状況>



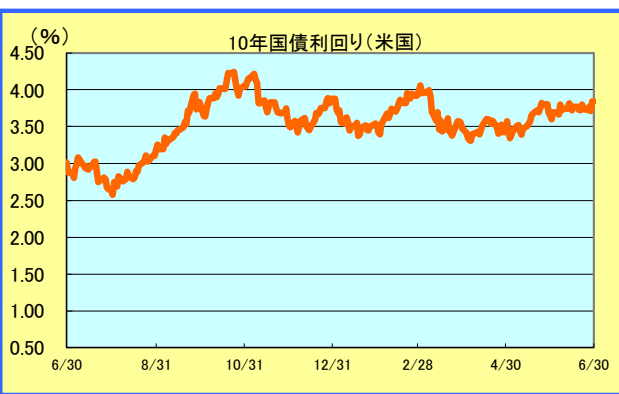
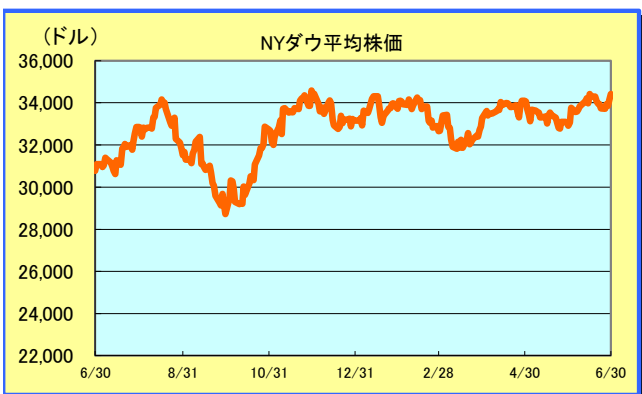
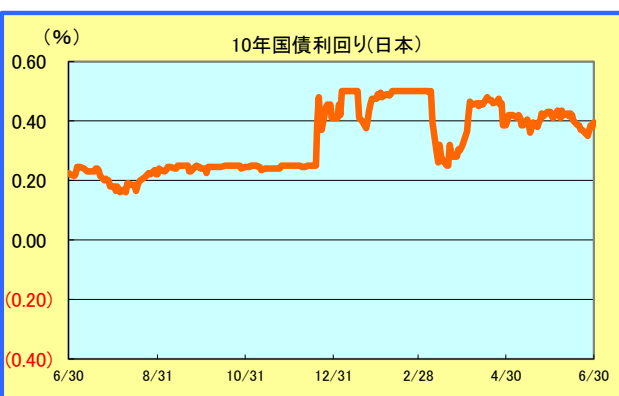
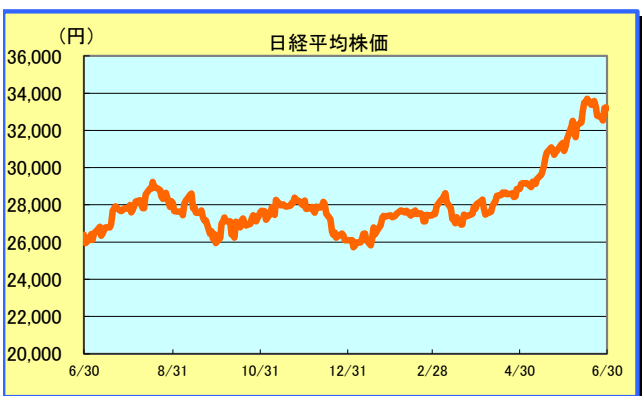
ユニットバリューの推移と運用環境の推移

ユニットバリューの推移



時点	ユニットバリュー
設定時	100.0000
2022/7/31	190.1942
2022/8/31	189.0998
2022/9/30	183.6272
2022/10/31	191.6030
2022/11/30	191.3981
2022/12/31	180.8935
2023/1/31	187.5947
2023/2/28	189.8902
2023/3/31	192.1895
2023/4/30	197.4632
2023/5/31	200.0977
2023/6/30	211.8835

運用環境の推移<直近1年間>



【組入投資信託の運用状況】

特別勘定の名称：ワールド・ミックス60(成長指向)

バランス50VA1(適格機関投資家専用)

・当資料は、「変額年金保険」の特別勘定について運用状況などを報告する資料であり、生命保険契約の募集および特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
 ・「変額年金保険」は生命保険商品であり、投資信託ではありません。また、ご契約者が直接投資信託を保有しているわけではありません。
 ・特別勘定には投資信託のほかに、保険契約の移動等に備えて現預金を保有していることや保険契約管理費等がユニットバリュー算出時に控除されることなどから、特別勘定のユニットバリューの値動きは投資信託の基準価格の値動きとは異なります。
 ・当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆または保証するものではありません。
 ・当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社による運用報告をジブラルタ生命保険株式会社より提供するものであり、当資料の内容に関してジブラルタ生命保険株式会社は一切の責任を負いません。

2023年6月30日現在



① 当月末基準価額

基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
27,372 円	60 円	734 百万円

【マザーファンドの純資産総額】

国内株式	国内債券	外国株式	外国債券
585,521 百万円	650,789 百万円	618,849 百万円	285,435 百万円

② 当ファンドの運用状況



(単位:%)

【騰落率】

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
当ファンド	4.97	9.48	14.71	12.54	34.68	174.79
参考指数	4.90	9.64	14.86	12.98	36.65	207.93
差	0.08	-0.16	-0.16	-0.44	-1.96	-33.14

【資産構成比と基準価額貢献度(月次)】

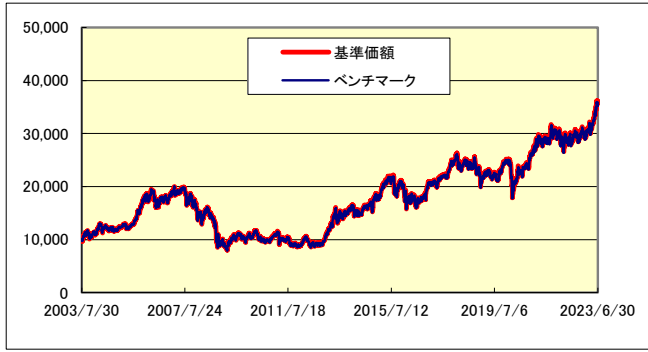
(単位:%)

資産	月末時価構成比	基本資産配分	差	基準価額騰落貢献度
国内株式	24.5	25.0	-0.5	1.89
国内債券 (短期金融資産込)	24.5	25.0	-0.5	0.06
外国株式	25.5	25.0	0.5	1.97
外国債券	25.5	25.0	0.5	1.00
その他	-	-	-	0.06
合計	100.0	100.0	-	4.97

- (注1) グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
 (注2) 参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。
 (注3) 騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
 (注4) 「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基準比差異効果及び資金流入要因他です。
 (注5) 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

③ 資産(マザーファンド)毎の運用状況

【国内株式】



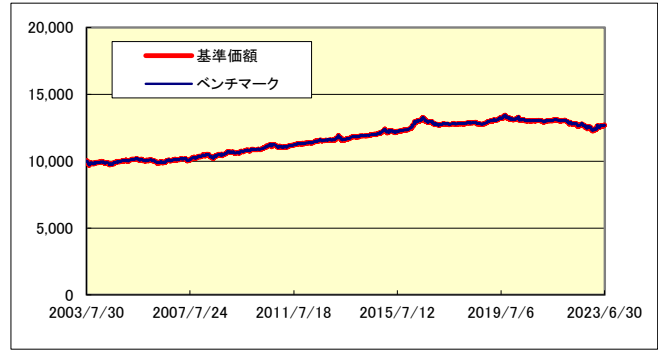
<騰落率> (単位:%)

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
マザーファンド	7.55	14.45	22.70	25.71	57.78	132.53
ベンチマーク	7.55	14.45	22.69	25.69	57.79	129.11
差	0.00	0.00	0.01	0.02	-0.01	3.42

<市場の動き>

国内株式市場は上昇しました。前半は、米国の債務上限問題が解決したことや、米雇用統計での強弱入り交じる結果を受けてFRB(米連邦準備理事会)が利上げを見送るといった観測から米国株式市場が上昇すると、国内株式市場にも波及し上昇しました。後半は、株価上昇による利益確定の動きなどから売りが先行したものの、円安・米ドル高を好感した買いやインバウンド需要の回復が続く企業への業績期待を背景に、高値圏で推移しました。

【国内債券】



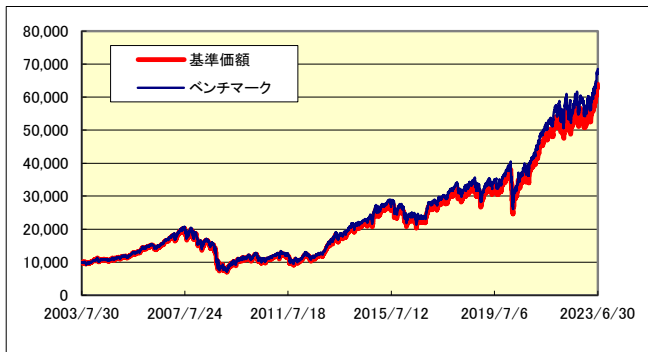
<騰落率> (単位:%)

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
マザーファンド	0.26	0.42	2.66	0.06	-2.66	37.06
ベンチマーク	0.27	0.41	2.64	0.06	-2.66	37.57
差	-0.02	0.00	0.01	0.00	0.00	-0.51

<市場の動き>

国内債券市場では、10年国債利回りが0.395%に低下(価格は上昇)しました。月央に日銀金融政策決定会合を控えて様子見気分が強まる中、月前半は利回りが横ばい圏で推移しました。月後半は利回りの低下が続き、26日には一時4月初旬以来の低水準となる0.350%をつけました。日銀決定会合では長短金利操作など現行政策が維持され、日銀総裁は会見で「物価目標の達成にはなお時間がかかる」と発言しました。債券市場の一部では政策修正の可能性が根強く警戒されていたことから、総裁発言を受けて当面は政策変更が無いとの見方が強まり、債券への買いが加速しました。内外株式の上昇を背景にリバランスを目的とした債券買いに出るとの見方や20日の国債大量償還に伴う再投資の買いが見込まれたことも、債券市場を支えました。

【外国株式】



<騰落率> (単位:%)

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
マザーファンド	7.87	16.00	23.99	23.24	93.87	410.92
ベンチマーク	7.94	16.18	24.24	23.49	95.38	457.23
差	-0.07	-0.18	-0.25	-0.25	-1.51	-46.31

<市場の動き>

米国株式市場は上昇しました。月前半は、債務上限停止法案が可決されたことや、CPI(消費者物価指数)の伸びが鈍化したことでFOMC(米連邦公開市場委員会)における利上げの休止が期待されたことなどから堅調に推移しました。月後半は、パウエルFRB(米連邦準備理事会)議長が議会証言においてさらなる金利上昇が必要との考えを改めて示したことなどから上値の重い展開が続きましたが、月末にかけては市場予想を上回る経済指標が相次いだことを受けて景気の軟着陸期待が高まったことなどから上昇しました。欧州株式市場は上昇しました。月前半は、中国による不動産市場支援などの景気刺激策への期待などから上昇しました。月後半は、中国の利下げが小幅にとどまったことや、BOE(英中央銀行)が市場予想を上回る利上げを行ったことなどから域内の景気減速懸念が高まり、下落しました。

【外国債券】



<騰落率> (単位:%)

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
マザーファンド	3.99	7.46	11.43	4.35	12.27	230.81
ベンチマーク	3.82	7.95	10.85	3.92	12.11	236.25
差	0.17	-0.50	0.58	0.42	0.16	-5.44

<市場の動き>

米国10年国債利回りは上昇(価格は下落)しました。FOMC(米連邦公開市場委員会)で追加利上げが見送られた一方、参加者の政策金利見通しが引き上げられました。利上げ長期化観測が強まる中、金利の水準訂正を見込んだ売りや先行きの景気減速を意識した買いが交錯し、利回りが狭いレンジで推移する展開が続きました。月末にかけては経済指標の改善が続いたことで売りが優勢となりました。ドイツ10年国債利回りは上昇(価格は下落)しました。月央にECB(欧州中央銀行)理事会を控える中、利上げ継続を見込んだ売りが優勢となり、利回り上昇が続きました。15日の理事会では8会合連続の利上げが決定され、7月会合での利上げ継続も示唆されました。月末にかけて、ユーロ圏のPMI(購買担当者指数)やドイツの企業景況感指標の悪化が続く、債券を買い戻す動きが活発化したことから、一時利回りが低下しました。

<各資産のベンチマーク(グラフはバランス50VA1の当初設定日を10,000として指数化し、設定日から基準日までを表示。)>

- 国内株式 TOPIX(東証株価指数)(配当込み)
- 国内債券 NOMURA-BPI 総合
- 外国株式 MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)
- 外国債券 FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

【組入投資信託の運用状況】

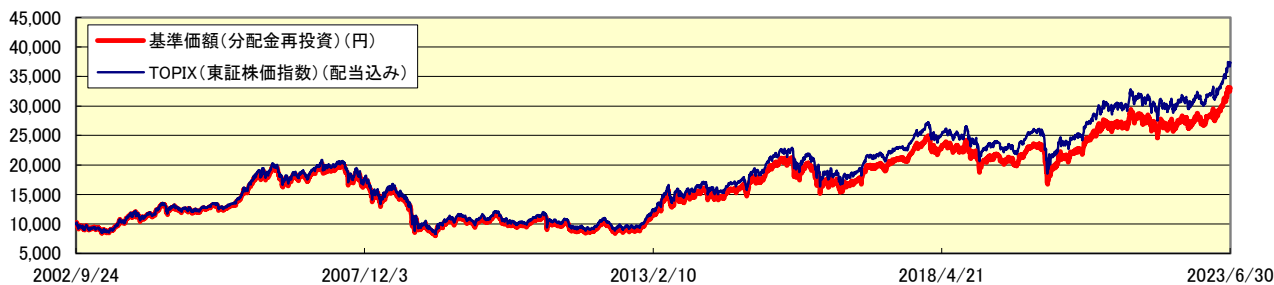
特別勘定の名称:ワールド・ミックス40(バランス指向)、ワールド・ミックス60(成長指向)、ワールド・ミックス80(積極指向)
日本株式インデックス・オープンVA1(適格機関投資家専用)

・当資料は、「変額年金保険」の特別勘定について運用状況などを報告する資料であり、生命保険契約の募集および特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
 ・「変額年金保険」は生命保険商品であり、投資信託ではありません。また、ご契約者が直接投資信託を保有しているわけではありません。
 ・特別勘定には投資信託のほかに、保険契約の移動等に備えて現預金を保有していることや保険契約管理費等がユニットバリュー算出時に控除されることなどから、特別勘定のユニットバリューの値動きは投資信託の基準価格の値動きとは異なります。
 ・当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆または保証するものではありません。
 ・当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社による運用報告をジブラルタ生命保険株式会社より提供するものであり、当資料の内容に関してジブラルタ生命保険株式会社は一切の責任を負いません。

2023年6月30日現在



① 基準価額推移グラフ(TOPIX(東証株価指数)(配当込み)は当初設定日を10,000として指数化。データは設定日から基準日までを表示。



※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

② 当月末基準価額

基準価額	32,866 円
既払分配金(課税前)	60 円
純資産総額	370 百万円

③ 資産構成比(対純資産、%)

マザーファンド	99.95
短期金融資産等	0.05
合計	100.00

【マザーファンドの資産構成比(対純資産、%)】

株式	98.74
株式先物取引	1.22
短期金融資産等	0.04

銘柄数: 2,087

④ 騰落率

(単位:%)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
当ファンド	7.49	14.26	22.30	24.90	54.77	229.98
TOPIX(東証株価指数)(配当込み)	7.55	14.45	22.69	25.69	57.79	273.17
差	-0.06	-0.19	-0.39	-0.79	-3.02	-43.20

※ 騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

⑤ 業種別組入比率(マザーファンド)

(単位:%)

業種	ファンド	市場	差
水産・農林業	0.08	0.08	0.00
鉱業	0.29	0.29	▲ 0.00
建設業	2.01	2.01	▲ 0.00
食料品	3.39	3.39	0.00
繊維製品	0.43	0.43	0.00
パルプ・紙	0.16	0.16	0.00
化学	6.05	6.04	0.00
医薬品	5.19	5.18	0.00
石油・石炭製品	0.42	0.42	0.00
ゴム製品	0.76	0.76	0.00
ガラス・土石製品	0.68	0.68	0.00
鉄鋼	0.87	0.87	0.00
非鉄金属	0.66	0.66	0.00
金属製品	0.52	0.52	0.00
機械	5.59	5.59	0.00
電気機器	18.32	18.31	0.00
輸送用機器	7.96	7.96	0.00
精密機器	2.58	2.57	0.00

業種	ファンド	市場	差
その他製品	2.35	2.35	0.00
電気・ガス業	1.28	1.28	0.00
陸運業	2.92	2.92	0.00
海運業	0.55	0.55	0.00
空運業	0.52	0.52	0.00
倉庫・運輸関連業	0.14	0.14	▲ 0.00
情報・通信業	8.25	8.24	0.00
卸売業	6.85	6.85	0.00
小売業	4.33	4.33	0.00
銀行業	6.10	6.11	▲ 0.01
証券・商品先物取引業	0.71	0.71	0.00
保険業	2.29	2.29	0.00
その他金融業	1.13	1.13	0.00
不動産業	1.80	1.80	▲ 0.00
サービス業	4.84	4.85	▲ 0.01
合計	100.00	100.00	—

ファンド: 株式資産に占める割合(%)

市場: TOPIX(東証株価指数)(配当込み)構成比

業種: 東証33業種分類

⑥ 組入上位15銘柄(マザーファンド、対株式資産比)

(単位:%)

銘柄名	業種	比率
1 トヨタ自動車	輸送用機器	3.88
2 ソニーグループ	電気機器	2.80
3 キーエンス	電気機器	2.08
4 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.01
5 日本電信電話	情報・通信業	1.68
6 三菱商事	卸売業	1.37
7 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.36
8 日立製作所	電気機器	1.34

銘柄名	業種	比率
9 東京エレクトロン	電気機器	1.33
10 任天堂	その他製品	1.26
11 三井物産	卸売業	1.24
12 武田薬品工業	医薬品	1.23
13 第一三共	医薬品	1.22
14 信越化学工業	化学	1.21
15 伊藤忠商事	卸売業	1.13